

論文審査の要旨および学識確認結果

報告番号	甲 第 号	氏 名	佐々木 雄希
論文審査担当者：			
	主査	慶應義塾大学准教授	博士（工学） 岸本 達也
	副査	慶應義塾大学教授	Ph.D. 三田 彰
	副査	慶應義塾大学教授	博士（工学） 伊香賀俊治
	副査	建築研究所主任研究員・筑波大学准教授	博士（工学） 樋野 公宏
<p>学士（工学）、修士（工学）佐々木雄希君提出の学位請求論文は、「街頭犯罪および犯罪不安の地域環境要因に関する基礎的研究」と題し、七章より構成される。</p> <p>埼玉県草加市の郊外の市街地を対象とした街頭犯罪の犯罪分布の特徴、街路網、街路の形態、街路周辺の設置物などの地域環境的要因と犯罪発生との関係、犯罪不安と環境的要因との関係进行分析し、犯罪抑止と不安軽減のための計画上の課題を明らかにしている。どのような街路環境で犯罪が発生しやすいか、不安を感じやすいか、詳細な調査と調査データの分析を通して、防犯に寄与する街路空間のデザイン、防犯対策の課題について提言をしている。</p> <p>第一章では、研究の目的、背景を述べている。</p> <p>第二章では、街頭犯罪の犯罪分布と環境的要因の関係について基礎的な分析を行っている。草加市の安全安心マップに記載されている犯罪発生分布も用いた GIS を用いた空間分析によって、街頭犯罪発生箇所のホットスポットの時間的な変動、学校、駅などの施設からの距離と犯罪発生との関係、道路ネットワークとの関係について明らかにしている。</p> <p>第三章では、不審者事案に着目し、不審者事案発生箇所と未発生箇所、さらにそれらの場所の街路環境の調査を行っている。数量化Ⅱ類分析によって、不審者事案は自販機のある場所や見通しが非常に悪い場所で発生しやすいなどの環境要因を明らかにしている。</p> <p>第四章では、犯罪被害に遭うリスクに着目した分析を行っている。街頭の通行量調査を実施し、通行量を考慮した犯罪にあいやすさのリスクを定量的に示すとともに、それと地域環境要因との関係进行分析している。ひたたくりに遭うリスクは、駅から少し離れた場所で相対的にリスクが高く、Space Syntax による統合性（Integration）や媒介性(Choice)が高い街路では相対的に低い事を明らかにしている。</p> <p>第五章では、草加市の住民を対象としたアンケートによる意識調査を実施している。居住者の地域環境特性による分類と犯罪不安に関する共分散構造分析により、住環境による犯罪不安に影響を与える要因进行分析している。犯罪不安は個人の健康状態や幸福感などの個人的要素よりも地域の犯罪発生情報や防犯活動への意欲が犯罪不安の増加に影響していること、犯罪不安の程度や犯罪不安を喚起する要因は住環境によって異なることを明らかにしている。</p> <p>第六章では、地域防犯のために設置されている防犯看板の意義について考察している。既成市街地に設置されている防犯看板について住民にアンケート調査を実施し、防犯看板に肯定的な意見は、日常生活における地域防犯への関心によって形成されていることを明らかにした。それと同時に、印象に残りやすい防犯看板の特徴や設置方法を明らかにすることで、より良い防犯看板の在り方について考察している。</p> <p>第七章は、本論文の結論であり、各章で得られた知見をまとめ、今後の防犯まちづくりに有益となり得る包括的な枠組みを提言している</p> <p>以上、要するに、本論文は、街頭犯罪および犯罪不安に影響する地域環境要因を明らかにし、犯罪発生の抑制、不安の軽減、防犯対策の在り方について、詳細な地域分析を通してその課題を明確化したものであり、建築計画および都市計画学上寄与するところが少なくない。</p> <p>よって、本論文の著者は博士(工学)の学位を受ける資格があるものと認める。</p>			
学識確認結果	学位請求論文を中心にして関連学術について上記審査会委員で試問を行い、当該学術に関し広く深い学識を有することを確認した。 また、語学（英語）についても十分な学力を有することを確認した。		